

平成 27 年 (2015 年) 3 月 12 日
中野駅周辺地区等整備特別委員会資料
都市政策推進室中野駅周辺地区整備担当

「中野三丁目地区のまちづくり及び桃丘小学校跡地の活用についての
地域説明会」の開催結果について

1 開催概要

日 時：平成 27 年 2 月 10 日 (火) 午後 7 時～午後 8 時 5 分

会 場：中野区役所

参加者：55 名

2 主な意見・質問とそれに対する区の回答・見解

(1) 中野三丁目地区のまちづくり全般について

No.	意見・質問の概要	区の回答・見解
1	中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver. 3 によると桃丘小学校跡地西側は、どのようなまちづくりを考えているのか。	良好な住環境の保全をめざす地区であり、事業は考えていない。
2	桃園通りの道幅は狭いが、今回の土地区画整理事業での拡幅は考えていないのか。	レンガ坂から北側については、土地区画整理事業により、8mに拡幅する予定である。レンガ坂から南側については誘導型まちづくりで建て替え時に、下がって頂くことを考えている。

(2) 桃丘小学校跡地の活用について

①拠点施設について

No.	意見・質問の概要	区の回答・見解
1	拠点施設に自転車駐車を整備し、にぎわい創出のため商業施設を誘致しようとしていることは理解したが、区には保育園などの子育て施設、高齢者施設が足りないと思う。駅に近い便利な場所なので、このような施設を整備して欲しい。	現時点で、自転車駐車場以外の区有施設の整備は考えていない。拠点施設はUR都市機構が、整備するがその際、区としては当該地域にどのような施設が必要か一定の考えを示して協議していく。要望については、意見として伺っておく。

2	桃丘小学校跡地をUR都市機構へ譲渡することについて、議会の了承を得ているのか。	桃丘小学校跡地をUR都市機構へ譲渡することについては、土地区画整理事業の施行要請とともに議会へ報告している。
3	桃丘小学校跡地にできる拠点施設はどの程度の規模、高さの建物になるのか。	現在この地区は、住居系で容積率は200%である。今後は商業系の活用を予定しているため、この容積率400%程度をめざし東京都と協議していくことになる。そうなった場合、高さは一般的には、10階建て30m程度、細い建物であればもっと高くなることが想定される。

②避難所について

No.	意見・質問の概要	区の回答・見解
1	桃丘小学校跡地は現在、避難所として指定されているが、代わりとなる避難所は、まだ決まっていないのか。	現在、桃丘小学校跡地施設は桃園防災会の避難所に指定されている。今後、桃園防災会の避難所を桃花小学校に変更したいと考えている。
2	桃花小学校は、既に2つの防災会の避難所に指定されているが、更に桃園防災会の人数を収容できる面積があると考えているのか。	現時点で、桃花小学校に避難すると想定されている2つの防災会の人数は900名である。これに、桃園防災会の想定避難者500名を合わせると1,400名となる。この場合、地域防災計画にも示している避難する際に必要な一人当たりの屋内スペース1.65㎡、屋外スペース1.0㎡は、十分確保できると考えている。
3	中野区の昼間人口は増えているそうだが、その避難所はどうなるのか。何人が避難場所へ行って何人が滞在できるのかシミュレーションしているのか。	通勤・通学の方の保護については事業者には責任があり3日間分の備蓄をすることが東京都の条例で決まっている。住民の方の避難所については、想定避難者数を踏まえて、区が避難所を指定している。